

企業訪問 資源循環レポート

大昭工業（株）

TEAMWORK
DISCOVER
CHALLENGE



新しい企業ロゴマークと木村社長

昭和40年6月創業、本年で55年目を迎える。

店舗、工場、解体現場、建設現場などで発生する産業廃棄物の収集・運搬（名古屋市、愛知県、三重県、岐阜県、静岡県）、特別管理産業廃棄物の収集・運搬（名古屋市、愛知県、三重県、岐阜県）、中間処理（愛知県）を行っています。

また、一般廃棄物の収集・運搬（名古屋市、春日井市、半田市、土岐市、瑞浪市、武豊町）、事業系廃棄物の収集・運搬（名古屋市）、浄化槽清掃業、浄化槽保守点検業等、幅広く業務を対応しています。

同社は、「循環あいち」108号（平成30年7月発行）の『企業訪問 資源循環レポート』にご登場いただき“社会的静脈インフラをとぎれさせない環境サービス業”について掲載をさせていただきましたが、今号ではオフィスの改修、ロゴマークのリニューアル等をはじめとした、コーポレートアイデンティティの刷新について大昭工業（株）代表取締役 木村諭意智氏にお話しをうかがいました。

■きっかけ

木村社長は以前より社屋の所々老朽化した箇所を建て直す予定でいましたが、コロナ禍により一時見合わせていました。しかし、業務を行う上でやはりオフィスフロア等をリニューアルしては、と話が進み昨年の10月ぐらいから工事に着手し今年の1月完成しました。

あたりまえを、

新しく。

大昭工業株式会社

 **DAISYO KOGYO**
大昭工業株式会社



大昭工業株式会社

■代表者／代表取締役 木村 諭意智

■所在地／愛知県名古屋市西区清里町18番地

TEL 052-503-5311 FAX 052-503-0115

同じく、以前より会社のロゴマーク、ホームページ等を含めた企業イメージの刷新について取り組んでいたこともあり、一連のプロジェクトにより社内外に向けてブランディング化が成されました。今回の新しい取組は新聞でも報道され注目を集めました。

■新たな展開

経営理念は『あたりまえを、新しく。』

同社は今期で55期を迎え、毎日のように問い合わせの電話が鳴ること、社員の皆さんはそれが“あたりまえ”のように感じるかもしれないが、いまの仕事があること、これは創業者の社長や古株の社員の皆さんが今の“あたりまえ”を創ってこられたことを忘れて欲しくない、とこれまでの方々に敬意を表されました。

“新しく”とは、これから会社の未来を担う若い社員に、これまでの“あたりまえ”をバージョンアップして、時代に合わせた形にして欲しいという意味を込めて、“あたりまえ”を“新しく”背負っていく覚悟をこれからの社員に持っていただきたい、と苦労を重ねられた木村社長の願いが込められています。

また、会社のロゴマークには、長く勤められている社員の社歴をリスペクトして指標として欲しいという深い意味合いを持ち、無限大であること、ブルーのカラーは堅実さ、オレンジは新しいアイデアを印象づけるよう、希望に満ち溢れた想いが詰まっています。現在同社には70～80代の社員の方が現場作業を担当されているとのこと、新ロゴマーク作成にあたり会社の背景がそのまま生かされています。

さらにレジェンドという役職の方（長年勤務の高齢の方）には、4月から週休3日を取り入れ、連続の休暇を増やし身体の負担を軽減し、業務の継続につなげられるような体制の強化を始めました。

業務においては、これまで問い合わせが多かったPCB廃棄物の収集・運搬に対応できるよう許認可を受け稼働されました。

同社のホームページのリニューアルは、仕事の問い合わせのきっかけが同社のホームページを見て、電話の問い合わせにつながっているとの傾向から、ホームページのイメージの告知力に着目し全面的リニューアルを行ったとのこと。

■次世代へ期待

今年から若手社員のモチベーションの向上を目指し、部長職に抜擢された30代の方がお見えだと聞きましたのでお話を伺いました。

資源循環課輸送部 部長 田中和樹氏

— 部長職に抜擢されてどのように思われましたか。

田中：嬉しい気持ち半分、驚いて心配な気持ちが半分、の複雑な胸中でしたが、社長の熱い想いを伺って自身を奮い立たせ、心配な気持ちの半分は、やる気になりました。

— 名刺に部長と記載のあるプレッシャーやお相手の反応はいかがですか。

田中：やはり初めての時は少し驚かれることもありましたが、その反応に当初はもどかしい気持ちになりましたが、今は会社の責任を背負っているという使命感が強くなり、臆することなく自信を持って話を進めることができるようになりました。

— 部長職に就かれて何か取組をされましたか。

田中：法令遵守の徹底を図るため、コンサルタントを招き事例をもとに勉強会を開催しています。私が講師を担当することもあります。勉強会を実施するようになって、ルールの再認識、マナーについてもスキルアップが図れていると感じます。参加者の年齢は20～60代と幅広く、レジェンドの方の話を聞ける良い機会として、また、過去事例が現在の法令ではこのように変わっている等の比較ができ、意識の統一がしやすいです。以前は担当課により出勤時間がばらばらだったため、会議が疎かになっていましたが、今は産業廃棄物課と一般廃棄物課との時間調整をして開催しています。

— 今後の抱負についてお聞かせください。

田中：まず、無事故、無違反、ノークレームです！次にチームワークの強化です。今、一般廃棄物課にも課長として3名抜擢されているのですが、それぞれの課長のカラーを尊重しながら一致団結を目指し、新たなコーポレートアイデンティティの社内浸透を推進していきたいと考えております。

— ありがとうございました。今後のご活躍に期待致します。

